



# さくら

2010年8月

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

## 合併症対策

合併症対策分析・広報部 桜井 寛

日本で透析を受けている方は年々増えつづけ、29万人を超えました（図1）。日本の透析医療の水準は世界一と言われる、一般の方とかわらない社会生活を送られている方もたくさんおられます。一方、糖尿病から透析となる方や高齢の方も年々増加し、さまざまな合併症（腎不全にともなう他の病

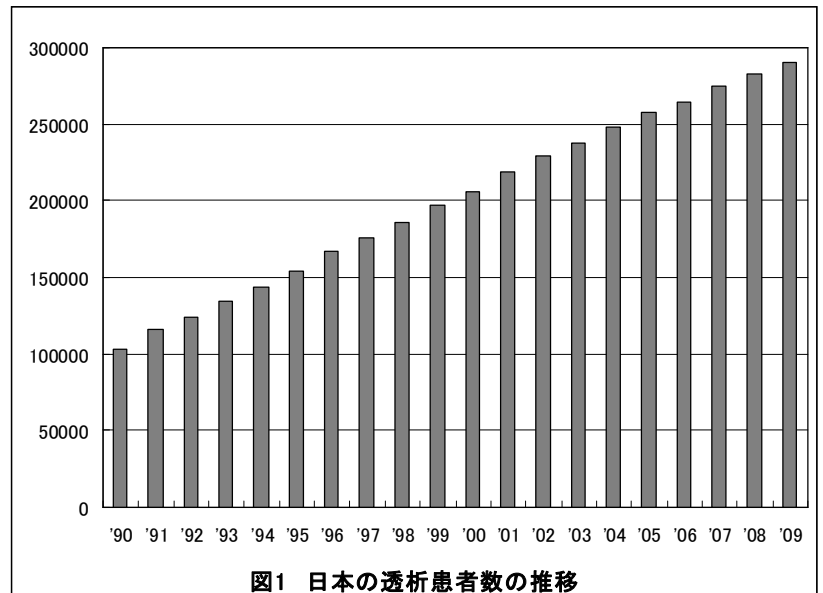


図1 日本の透析患者数の推移

気）特に心臓病と血管系の合併症をもつ方も増えております。

透析生活をおくる上でもっとも大切なことは、患者様自身の自己管理（水分や食事、服薬など）であることは言うまでもありませんが、実はそれだけでは不十分です。残念ながら全国の透析患者様の約10%の方が毎年お亡くなりになっています。その原因の半分は心臓病と血管系の病気が占めており、これらの疾患は腎機能の低下にともなって「透析になる前」から、病気が進行しているということが明らかになっています。したがって、私たちは、合併症を早く発見し、早く治療することが何よりも重要と考え、全国に先がけて実践してまいりました。その結果、偕行会グループで透析を受けておられる患者様が、毎年亡くなられる割合は7%以下に抑えられています。

今回は主な合併症とその対策についてお話したいと思います。